

沖縄から世界へ 空手の真髓を発信



10月25日は「空手の日」です。
沖縄を発祥とする空手は、今や世界の武道として発展しています。
今回は、沖縄が世界に誇る伝統文化である沖縄伝統空手に関する
県の取り組みを紹介します。

空手発祥の地・沖縄

世界に広く普及している「空手」、その「発祥の地」は沖縄です。
空手は、沖縄の長い歴史の中で育まれ、大切に継承されてきました。琉球王国時代には門外不出の秘術として伝承されてきましたが、明治時代になると、一般にも開かれたものとなりました。
現在、空手は、様々な流派が生まれ、国境や言語、宗教、人種等の壁を越えて、世界180カ国余り、約1億人の愛好家を有するといわれるまでに発展しています。



世界各国から空手愛好家が参加した沖縄伝統空手・古武道国際セミナーの様子

そのような中、世界の空手愛好家から空手発祥の地・沖縄の「沖縄伝統空手」沖縄伝統古武道を含む「への注目が高まっています。

沖縄伝統空手の魅力 (世界からの来訪)

沖縄伝統空手の主な特色は、伝統的な技法や型、精神性、礼節を重視し、師匠から学んだ技を継承することにあります。

また、沖縄伝統空手の先達が「空手に先手なし」、「人に打たれず、人を打たず、全て事なきを基とする」などの金言に表現されるとおり、沖縄伝統空手の地道で厳しい日々の鍛錬は、戦って相手を倒すためではなく、外敵からの攻撃に備える力を付け平常心を保つことで、争いを避け、自己の人格を高めることを目的としています。

このような高い理念を持った武道であることから、沖縄伝統空手を「平和の武」と表現することがあります。

この伝統は、県内460余りの空手道場で守られており、本場の技法や型、精神、礼節など、「空手の真髓」を学ぶために、世界から多くの空手愛好家が沖縄を訪れています。

10月25日「空手の日」には 記念演武祭を開催

昭和11年(1936年)10月25日、著名な空手関係者が一堂に会し、今では多くの人々になじみとなった「空手」という表記の統一について座談会が開催されました。

平成17年、沖縄県議会では、この日を特別な日として歴史にとどめ、沖縄伝統空手のさらなる発展を祈念して、10月25日を「空手の日」とすることを議決しました。

沖縄県、沖縄県議会、沖縄伝統空手道振興会では、「空手の日」にあたり、沖縄伝統空手の素晴らしさを県内外の多くの人に知ってもらうため、毎年、「空手の日」記念演武祭を開催しています。



空手の日記念演武祭(平成26年)

お問い合わせ

県文化振興課
電話：098-866-2768
FAX：098-866-2122

空手発祥の地・ 沖縄の発信拠点

沖縄伝統空手は、沖縄が世界に誇る伝統文化です。県では、沖縄伝統空手を重要な文化遺産として捉え、その保存・継承・発展を図るため「沖縄空手会館」を整備しています。

沖縄空手会館は、「空手の発祥を伝え、真髓を学ぶ拠点の形成」をコンセプトとし、空手発祥の地・沖縄を国内外に発信するための拠点となる施設です。

建設場所は、豊見城市(豊見城城趾公園跡地内)で、敷地面積は約4ヘクタールです。



沖縄空手会館のバース図

当会館では、空手の大会・演武会等を開催するとともに、空手愛好家を対象とした研修プログラムなどを実施します。
また、一般の県民や観光客を対象に、空手の体験プログラムや学校教育と連携した空手の普及活動等を行う予定です。

建てられ、那覇の街並みが一望できます。また、那覇空港や県立武道館からも近く、便利な場所にあります。
敷地内には、①空手道場、②空手資料館(仮称)、③沖縄の伝統を象徴する赤瓦屋根の「奥の院(仮称)」などを建設します。更に、鍛錬室、セミナー室、飲食スペース、空手関連の店舗を備える予定です。
建物の外観コンセプトは、県民に親しみのある琉球石灰岩を多用して沖縄らしさを感じさせるとともに、時が経つにつれて敷地周辺の環境や景観に自然と馴染むデザインとし、連続した石張りの壁面でグスクの石積みを持つ力強さを表現します。

沖縄空手会館は、2016年秋頃のオープンを予定しています。

